



い な ば 伊奈波さん

No.1

平成15年
創刊号



参道より伊奈波山を望む

伊奈波神社社報 創刊記念特別号



伊奈波神社
宮司 東 道人

創刊に際して

六月上旬の若葉が最も美しい季節と國學院大學教授、恩師小野祖
教博士が申されていたことが想い出されます。

伊奈波神社の創建は今を去ること一九〇〇年に遡る歴史と伝統の
ある御社で、古くは稲葉山麓の丸山に鎮座されておりましたが戦国
時代この井之口に奉遷され、数百年の歴史が漂う稲葉山であります。
伊奈波神社は古くから岐阜の絵鎮守として親しまれ、また岐阜の伊
奈波さまと称されておりますように、まさに市民のなかに赫々と光
輝いております。

市民の皆様や崇敬者の方々と(岐阜の伊奈波さま)を繋ぐ掛橋とな
るよう、この度当社の社報「伊奈波さん」を刊行する運びとなりました。
手軽で読みやすい社報づくりを目指し伊奈波神社のニュースを掲載
し広く通読していただくことを願ってやみません。

日本の国も高度成長の時代が過ぎ去り新たな時代が打ち出されて
おります。まさに物質文明から精神文明への時代に突入した感があ
ります。

過去の時代で大きな文化を置き忘れてきたものを再び見直す時代
でもあります。正しいものは正しい、悪いものは悪いという正しい
判断と精神的に不安をもたらずようなことがあつてはならないと思
っております。

とりわけ宗教は思想を正し、安心を与えることが、その目的であります。
時代が混迷してまいりますと、ややもすれば不安が先に立ってしま
いますが、常日頃そのような安心な精神を養っていかねばなら
ません。

まず以つて、氏子崇敬者の皆様方のご多幸とご健康をお祈り申し
上げ一言ご挨拶申し上げる次第であります。

年間行事(1月~4月)



集められた縁起物等のお焚上げの様子

左義長神事
左義長神事は、小正月に行われる火祭りの行事である。当社では伊奈波広場に年末より古札納め所が臨時設置され、古札や縁起物が集められる。今年も一月十七日朝に左義長神事が行われ、お祓いの後、厳しくお焚上げされた。近年燃えないゴミを堂々と捨てていく人も一部おり、大変問題となっている。



手筒煙火の様子

手筒煙火奉納祭
この祭りは手筒煙火の燃えたる勢いで厄を落とす神事であり、今年で十一回目を迎える。本年も二月三日午後五時半に、本殿にて手筒煙火奉納祭が行われ、本殿にて手筒煙火が打石で忌火を起し、煙火師が手筒煙火を打石で起し、祭典が続いて伊奈波広場では大中小七本の手筒煙火が次々に火の粉を上げる。七本の手筒煙火が次々に火の粉を上げる。七本の手筒煙火が次々に火の粉を上げる。七本の手筒煙火が次々に火の粉を上げる。

筒粥神事
筒粥神事は、古来より当社にて行われてきた特殊神事で、五穀をはじめ農産物の豊凶を占う神事であり、毎年一月十五日(小正月)に行われている。
当日は、身を清めた神職が忌火・白米・小豆・竹筒・薪・釜を準備して祓い清め、祝詞を奏上した後、筒粥が作られた。この筒粥の状態によって、その年の作物の吉凶が占われ、結果は、初春に行われる花の撓大祭(五穀豊稔祈年祭)で発表される。



沸き上がった釜に白米・小豆と竹筒を入れて筒粥を作る。



節分厄除特別祈禱に袴を着用した年男が豆を撒く

二月三日の節分に当社では節分厄除け祈禱を行っている。これは、厄年の人を中心に厄除け・開運招福を祈る祭である。今年も多くの人々が参拝し、本殿にてご祈禱を受けられた。
時折特別祈禱が行われ、鬼は外、福は内という威勢の良い掛け声とともに拝殿いっぴいに豆撒きが行われ、終日大勢の祈禱者で賑わっていた。

節分厄除け祈禱
二月三日の節分に当社では節分厄除け祈禱を行っている。これは、厄年の人を中心に厄除け・開運招福を祈る祭である。今年も多くの人々が参拝し、本殿にてご祈禱を受けられた。
時折特別祈禱が行われ、鬼は外、福は内という威勢の良い掛け声とともに拝殿いっぴいに豆撒きが行われ、終日大勢の祈禱者で賑わっていた。



今年小学校入学予定の児童と関係者と白ゆり婦人会の方々

入学児童勧学祭
三月十五日、白ゆり婦人会・敬神婦人会の恒例により、婦人会員らの関係児童ら二十名が参列し、入学児童勧学祭が行われた。
神前で神妙なおももちでお祓いを受けた児童たちはおさがりを片手に親たちと一緒に入学の日を心待ちにしながら元気に帰っていった。

入学児童勧学祭
三月十五日、白ゆり婦人会・敬神婦人会の恒例により、婦人会員らの関係児童ら二十名が参列し、入学児童勧学祭が行われた。
神前で神妙なおももちでお祓いを受けた児童たちはおさがりを片手に親たちと一緒に入学の日を心待ちにしながら元気に帰っていった。

伊奈波神社例祭

四月五日午前十時より例祭が斎行され、雨天のなか、神社役員総代をはじめ崇敬者等六十数名が参列し厳肅に行われた。あいにくの天候により午後からの神幸祭は翌六日に順延となったが夕刻より天候が回復し午後六時三十分より宵宮が行われ太鼓の奉納から始まり氏子町内四台の山車、市内外の神輿が順次集まり門前は約一万人の人出で賑わった。



(御鳳輦前での発幸祭)

当社例祭は「岐阜祭」とも云われ、岐阜市全体をあげたお祭りである。詳しい起源は不明であるが、現在の祭の形になったとされるのは「江戸時代中期」である。明治初頭までは毎年三月三日であったが、新暦施行以来四月五日が例祭日となった。

御神幸も、例祭の前日の四月四日であったが、近年は交通事情等により、四月の第一土曜日となった。
御神幸祭は、本殿での発幸祭の後、御鳳輦を中心に神職・巫女その他神社総代・社委員・稚児等約一二〇名が隊列を組み、当社主神の五十瓊敷入彦命の妃君・淳彥斗媛命を祀る金神社、御子・市牟雄命を祀る榎森神社へ御旅行し当社へと還幸される。
今年の御神幸祭は、晴天と初夏を思わせる気候の中、儀装車十台で巡行し、金神社、榎森神社で、両神社の氏子等が見守る中、御旅所祭が賑々しく斎行された。
榎森神社から若宮町通りは徒歩となり、金神社の神幸行列も含め二百名余が祭り客の中を悠然と巡行した。その後、菅原町の北野神社、本郷町の赤口神社へ立寄り、神職・総代等が参拝し当社での還幸祭となった。



宵宮

午後から天候が回復した五日の夕刻には、宵宮が行われた。宵宮は午後六時三十分頃の青雲太鼓の奉納から始まる。勇壮な太鼓の音が伊奈波山にこだまし、祭りの気分を高めていった。その後、氏子が担当する「山車」の曳出しとなる。
当社が所有する山車は四輦で「安宅車」「清影車」「蛭子車」「踊山車」と呼ばれている。
戦前は、各町内が所有する山車が二十四輦を数えたが、濃尾大震災・第二次大戦により、現在の四輦となってしまった。現在のこの四輦は何れも市重要文化財となっている。山車は各町内を巡り、伊奈波通りに入ってくる。



宵宮風景 (伊奈波通り)

通りに入ると祭り客が楽しみにしている「まわりこみ」を行う。「まわりこみ」とは、前輪を浮かせ、くるくると廻すことで、山車の回転する力により一五〇個の山車に飾られた提灯が美しく揺らぐ光景もまた、祭り客を賑わせた。伊奈波広場に入ると四輦が並び、「からくり」の奉納が行われる。からくりが終わる頃広場には威勢の良い掛け声に合せ、本神輿が入ってくる。
今年も、本神輿のコンテストが行われ、五基の神輿が練り込みを競った。神輿の練り込みが終るといよいよ終演を迎え、仕掛け花火が奉納される。約一万人の祭り客は、伊奈波山を色とりどりに染める花火を名残惜しそうに眺めていた。

〔経緯〕
当社は古来より岐阜の総鎮守の神様として篤く崇敬され、古くは丸山の地に鎮座。後、戦国時代(室町末期)の守護斎藤道三によつて現在の地に御遷座せられ約五百年程となります。明治以降は社殿も整備拡充され、官社制度下では、県社となり、昭和に至つて十五年には国幣小社となり、ほぼ現在の社殿の様式となりました。しかしながら、ご承知の通り当社の立地環境は谷合の地形により、境内社殿の老朽・破損が著しく、現状では天災などの大きな災害には耐えられぬものと存じます。これまで、当社では、適宜局所的な修繕・整備を行つてきまし

平成の神社境内 大改修事業について

現在当社では「平成の神社境内大改修工事」事業を進めています。計画実行のための準備も着々と進み、今年には社頭が本格的に姿を変えていくこととなります。岐阜の総氏神として尊厳を守り、市内にあつて広大なる神域であり続けるための維持と継承を志し、千九百有余年の歴史から新たな一歩を踏み出したいと存じます。

だが、この際、神社の尊厳を守り、境内の保全・参拝者の安全を確保し、参拝者が安心して参拝できるようにすべく、当社役員・総代・営繕委員各位と協議の末、境内全般において改修する事となりました。

〔事業計画〕

- 一、参道回り改修工事
本殿以下社殿(腐朽部修復)参道(石畳替・境内造園)神輿庫・古蔵(腐朽部修復)防犯施設(本殿付近)境内照明



(改修予定の楼門内石畳)

- 二、社務所改修工事
社務所・貴賓室・各座敷・廊下他)・儀式殿
潔斎所・洗面所・倉庫
事務所

今回の計画は境内各所の老朽・危険箇所の改修を致すこととし、更に社務所隣に裏千家茶室「水月亭」が建設(六月末完成)され、また長年の使用で老朽が目立つ山車庫の建設も検討されている処であります。これらの総合計画では補修・改修工事は百箇所に及び新たな茶室・山車庫等が増築されることで、これは正に平成の神社境内大改修工事といえるものであります。



(全面改修予定の参集殿ロビー)

- 三、参集殿改修工事
一階ロビー全面改修
二階会場施設改修
二階新祈祷殿増設
屋上防水工事

- 四、茶室水月亭付近の改修
- 五、山車収蔵庫建築
(建設時期は未定)

〔奉賛について〕
さて、この平成の神社境内大改修にあたり、私どもの遠い父祖の代より氏子の人々がその時々、御神恩に感謝しつつ一つ心に、御神恩に感謝し努力され、鎮守の社に相応しいご社頭を整備して今に残して下さっている様に、私も先人に見習い、これから続く子や孫の為にも意義のある事業を実施して敬神信仰に受継がれてきた尊い伝統を次世代へ継承し報恩感謝の真心を挙げてまいりたいと存じます。以上のような境内の整備及び諸施設の改修工事を計画し実施の運びとなりましたが、総工事費(約二億円)は主に神社資金を投じて着工します。つきましては時節柄洵に厳しい時ではあります。このたびの大改修工事の趣旨をご理解頂き、多くの皆様にもご協賛大変有難く存じ上げます。伊奈波神社の変わりゆくさまを、皆様のあたためたい目で見守っていただき、また多大なご迷惑をおかけすることもあるかと存じます。社への好機とご理解いただき、これまでと変わらぬ崇敬のお気持ちをお寄せいただきたく存じます。

裏千家茶室「水月亭」竣工

当社境内地(社務所西側)に裏千家茶室「水月亭」が建築され、来る七月十一日、竣工祭が斎行される。当日は淡交会本部、同会岐阜支部をはじめ神社役員総代、施工業社等数十名が参列予定。

これまで水月亭は約百年に亘り東別院(岐阜市大門町)庫裏御殿一部として裏千家の茶会等に使用されてきました。しかし二年前に同院保育園建替えに伴い老朽化した庫裏御殿ならび茶室を取壊すことになり、そのため元の裏千家淡交会岐阜支部会員らが移築を求めて関係者等と交渉し、裏千家を運営する財団法人今日庵(京都市)が茶室を東別



上棟祭

院から譲り受けて解体、保存していただきました。その後、移築先を選定の末、当社境内地に決定され、平成十四年七月十一日地鎮祭、十一月十八日上棟祭が行われました。地鎮祭は裏千家前家元千宗室(十五代鷹雲斎)を始め関係者、神社役員総代等約七十名が参列、晴天のなか厳肅に斎行されました。また上棟祭には裏千家淡交会専務理事関根秀治氏を始め関係者、施工業社関係者等四十三名が参列し古式に習い木槌打ち鳴らし華やかに斎行されました。再建では建物の柱や屋根に大規模な補強を施し、以前に造り替えられていたにじり口を当初のままに戻し付属施設、淡交会岐阜支部事務室など七室を設ける。移築費用は全額今日庵が負担し建物を神社へ寄付する。そして神社が維持管理、同会支部が日常的の運営を担うこととなります。九月四日は披露式、十一月は献茶祭を予定しています。

水月亭

江戸後期、裏千家第十一代家元玄々斎の指導で東本願寺(京都市)に建造。その後、明治二十年代に岐阜市商人桑原善吉氏が同寺へ襖絵(円山応挙)を寄贈し、その答礼として水月亭を岐阜市東別院に寄贈されることになり同別院庫裏御殿の一部として移築された。京風数寄屋造りて茶室用「台目量」と通常の量を二畳ずつ組合せた斬新な造り。茶室には無双窓、書院にはひしゃく柄を使った墨蹟窓という玄々斎好みの意匠が見られる。

玄々斎の茶室は他には二カ所残るのみで水月亭は特徴をよく残している。床面積百二十平方メートル。



東本願寺岐阜別院時の様子



ひしゃくの柄を大胆に使った墨蹟窓



無双窓

裏千家
千利休居士を始祖とし千家三代目千宗旦の第四子仙叟千宗室の家系。他に表千家、武者小路千家があり三千家と言われる。第十一代玄々斎(一八〇〇〜一八七七)玄々斎は幕末から明治の変動期に、裏千家のみならず幅広く茶道界に影響を及ぼし、日本各地に茶の湯を広めた。また、外国人を迎えるための立礼式を創案するなど、獨創性が随所に見られる。

各祭典案内(七月〜十二月)

七月

十五日 月次祭(午前六時)
 二十四日 黒竜神社祭(午前六時)
 三十日 松尾神社祭(午後六時三十分)
 みそぎ神事(午後七時)

八月

一日 月次祭(午前六時)
 十四日 須佐之男神社祭(午後七時)
 十五日 菅提灯奉納祭(午後八時)
 十五日 月次祭(午前六時)

九月

一日 月次祭(午前六時)
 十四日 花の撓講社祭(午前十一時)
 十五日 月次祭(午前六時)
 末社祭(午前六時三十分)
 敬老祭(午前九時)
 忠魂碑慰霊祭(午後三時)

十月

一日 月次祭(午前六時三十分)
 十五日 月部祭(午前十一時)
 十七日 神嘗祭(午前十時)

十一月

一日 月次祭(午前七時)
 松尾流献茶祭(午前七時)
 明治祭(午前七時)
 峯本宮祭(午前七時)
 金山神社祭(午前十一時)
 月次祭(午前七時)
 大麻・神符頒布祭(午後四時)

十二月

一日 新月次祭(午前七時)
 十五日 新嘗祭(午前十一時)
 一月 月次祭(午前七時)
 煤弘神社祭(午前十時)
 御神樂祭(午後二時)
 天祓長祭(午前九時)
 三十一日 除夜祭(午後四時三十分)

古の神に見守られて

二人の想いがひとつになる。



千九百年の長きにわたり、
 岐阜の総産土神として、
 一万組にも及ぶ婚儀を
 見守られてきた
 伊奈波大神。
 神殿内では雅楽が響き、
 巫女が舞う……
 そして、心からの祝福を
 贈る両家の家族。
 今、古の神に見守られて、
 二人の想いが
 ひとつになつていく。

婚礼予約 受付中!!



伊奈波神社 参集殿

敬神活動のお知らせ

白ゆり婦人会(敬神婦人)
 神社主要行事に奉仕
 正月、節分、例祭、七五三神事等接待
 月例神拝・講演会受講

彌榮青年会(氏子青年)

神社主要行事に奉仕
 正月・七五三甘酒等接待、例祭神幸式
 供奉等、月例懇談会

伊奈波雅楽会(氏子雅楽有志)

祭典・神事等雅楽奏奉仕
 月第一・第四土曜日夜雅楽稽古実施

「講社の紹介」

・日 供 講… 毎朝奉仕される日供祭に講員の方の健康をそれぞれ毎月誕生日にお伝えします。

・大黒龍 講… それぞれの神の御神徳を迎え、年に一度お祭りを斎行いたします。

・朔月初祈禱… 月次祭に引き続き、昇殿参拝し、諸願成(毎月一日) 就の祈禱をする。

※各講社の申込みは、受付迄お申し出下さい。

編集後記

この度、漸く社報「伊奈波さん」の発刊となりました。
 今回創刊号ということで神社祭典行事、又、茶室・境内大改修事業のことなど伊奈波さんの新たな歩みを紹介したいと編集致しました。
 担当は森田、山本、宗宮、清水の四名です。
 今後一層努力致し多くの方々にご講読していただけるよう努めてゆきたいと考えております。(潔)

発行所 伊奈波神社社務所

〒500-1804
 岐阜市伊奈波通り一丁目一番地
 電話〇五八二六二一五(一五二番代)
 (年二回、六月・一月発行)